

大鹿村中央構造線博物館たより 81号



月・火曜日休館

TEL&FAX: (0265) 39-2205 E-mail: mtl-muse@osk.janis.or.jp

— 博物館イベント案内 —

講演会「エコパークってなんだろう？」

講師：若松 伸彦さん（東京農業大学 講師、南アルプス市ユネスコエコパーク推進室 専門員）

- 日時：3月5日（土）午後2時～4時
- 参加無料・申し込み不要
- 場所：大鹿村中央構造線博物館 学習室

2014年6月、南アルプスが生物圏保存地域（日本ではユネスコエコパークとも呼ばれています）に登録されました。大鹿村は全村が指定地域に含まれています。でも、エコパークっていったいなんだろう？ エコパークを知り、大鹿村民が何をやっていくか、一緒に考えます。

また、若松さんは植物がご専門とのことで、南アルプスの植物についてもお話しいたします。

大鹿の大地をちょっと見る観察会

- ① 3月12日（土）大河原の平地はどのようにしてできたか

大鹿小学校のボーリングコアの観察、河原のでき方実験、上市場の河床れきなど

- ② 3月26日（土）大河原を中央構造線をまたいで歩く

右馬允下の蛇紋岩、城の腰露頭、大西公園の鹿塩マイロナイトなど

午後1時～4時（午後1時、大鹿村中央構造線博物館 集合） 参加無料・申し込み不要

西方見聞録「世界はこんなふうだった」ネパール編

伊東一郎さん（大鹿村 塩河在住）によるスライド上映会、ネパール編は次回で最終回です。1987年から90年にかけて撮影された写真を、スライドショーとご自身の解説で紹介していただきます。

第4話（ネパール編 最終回） 2月21日（日）タライ平野、ダウリギリ山群

- 時間：午後2時～4時
- 入場無料・申し込み不要
- 場所：大鹿村中央構造線博物館 学習室

※イベント等の詳細は大鹿村中央構造線博物館（TEL：0265-39-2205）までお問い合わせ下さい。

西方見聞録「世界はこんなふうだった」第2話、第3話を開催

1月から引き続き、大鹿村 塩河在住の伊東一郎さんによるスライド上映会、西方見聞録「世界はこんなふうだった」ネパール編の第2話と第3話を開催しました。

1月24日(日)の第2話ではネパールの中央付近、アンナプルナ周辺の山々や現地の人々の様子を見ていきました。アンナプルナはヒマラヤ山脈に属し、東西約50kmにわたって連なる山群の総称で、第1峰(8,091m)、第2峰(7,937m)、第3峰(7,555m)、第4峰(7,525m)からなります。アンナプルナ1(第1峰)は1950年にフランスのチームにより、人類が初めて登頂した8,000m峰です。一方で遭難率が世界一、最も死亡率が高い山でもあり、2014年にも遭難事故が起きています。実際に頂上まで登るとなると非常に危険度の高い山ですが、写真で見ただけでも雄大で美しく、登山家が魅かれるのも無理はないと感じるほどでした。

2月7日(日)の第3話では、アンナプルナ内院という聖域とされる地域や、ネパールの典型的な風景である中部山間地域、飛行機から撮影したヒマラヤの様子などを上映しました。

アンナプルナ内院と周辺では、伊東さんが懐かしさを感じたという、どこか日本の田舎にもありそうな素朴な集落や広大な段々畑など、ヒマラヤでの暮らしを垣間見ることができました。周囲には聖域と呼ぶにふさわしい山々を始め、森や氷河に削られた谷などがあり、自然も表情豊かでした。現地の人々によれば、山に雪がついて白くなっている部分は神様が住むところなのだそうです。

また、遊覧飛行をした際の様子も壮観でした。ヒマラヤ山脈は地球上で最も若い山脈の1つで、約7,000万年前に始まった、インド・オーストラリアプレートとユーラシアプレートの衝突によって生じました。改めて大地の力とスケールの大きさに思いを馳せることができました。

次回はネパール編 最終回、2月21日(日)午後2時~4時、博物館 学習室にて開催します。途中回のみでの参加でもお楽しみいただけます。皆様のご参加、お待ちしております。(榊原)



アンナプルナの位置 (Google マップより)

講演会「南アルプスは高くなっているか」、「GPS でわかってきたこと」開催・講演記録作成開始

昨年11月21日(土)、大鹿村交流センターにて、名古屋大学教授の鷺谷威さんによる講演会を開催しました。鷺谷さんは地殻変動学が専門で、GPSなどを用いた測量から地殻変動を研究しておられます。2つのテーマで講演していただき、「南アルプスは高くなっているか」では地殻変動の観測からわかったことや山の高さの求め方などについて、「GPSでわかってきたこと」では日本列島全体の地殻変動等の観測結果からわかったことについてお話しいただきました。

参加者は約30名で、村外からも多くの方が参加して下さいました。専門的な内容にも触れましたが、参加された方々はどなたも熱心で、質問も活発にしておられました。

現在、博物館では講演記録を冊子として出版するため、講演会のテープ起こし文書の編集や講演会資料の図などの加工を進めています。時間のかかる作業で、いつ出版できるかは未定ですが、貴重な記録として残すと同時に、知識の普及にも力を入れていきたいです。(榊原)